



奈良町にぎわい通信

Vol.38

二〇一八・芒種〜夏至

発行
奈良町
にぎわいの家



蔵・アート
イマタニタカコ

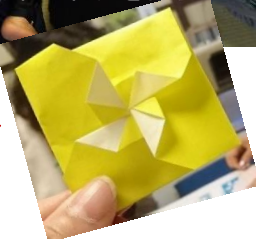




夏らしいお香の組み合わせを楽しみました。



折り紙で香袋を作りました。



地歌・菊聖公一氏 尺八・田辺頌山氏
町家に心地良くも華やいだ音色が。

「はじめてのお香席」御家流 堀井暁蓉先生
「和」の楽しみ～お香、着物、邦楽～
ムジクフェスト参加
「邦楽の世界へようこそ」 「今知りたい！着物の話」



磯映美先生のお話は、すぐに生かせる知恵がいっぱい。

奈良町にぎわいの家 5月のイベントから



玉すだれ体験。
子どもたちは
あっというまに習得！



ゴールデンウィーク名物
にぎわい・南京玉すだれ！
八総美都代の会。
かけ声もにぎやかに！



恒例の二十四節気講座
倉橋みどり先生

昔遊びに夢中になって～大人も子どもも

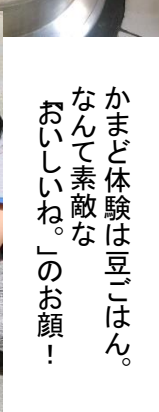


大塚英二郎先生
による
「コマの楽しみ」
珍しいコマが
いっぱい！

いろんな
コマに
触れたあとは



→外で実践！



かまど体験は豆ごはん。
なんて素敵なお顔！
おいしいね。」のお顔！

奈良町にぎわいの家 来館30万人セレモニー



コメントする崔さん。
この一週間後にまた再会できるなんて...



当館・おのプロデューサーが
記念品を贈呈。

2015年、4月18日に当館がオープンしてから3年がたちました。おかげさまで、これまで沢山のお客様が来館、5月13日に、30万人セレモニー開催となりました。当日は、大雨！（後に大雨警報も出たとか…）で、来館者も少なく、心配していましたが、韓国からお越しのお客様に、記念の品をお渡し、来館のみなさんにも見守っていただいたのセレモニーとなりました。

韓国からのお客様は、崔任熙（チェ・イムヒ）さん。海外旅行の添乗員で、というところに案内したらよいだろう、と奈良町にリサーチに来られたとのこと。日本語が堪能で、「韓国にも古い町並みがある。奈良町は落ち着く。沢山の人を案内したい。」とコメントされました。記念品として、茶粥セット、金平糖、蚊帳ふきん。どれも奈良町ならではの品です。

さて、その一週間後、晴れた日のこと。崔さんに良く似た方がいるなあ、と思っていたら…なんと、その崔さんでした。コメントで言われたように、早速、韓国のお客様を連れて、来館してくださったのです。びっくりするやら、嬉しいやら。家族連れでお子さんもおられ、当館の節気スタンプを押してもらいました。奈良町ファンになった方が、またお客様を連れてきてくださる…こうした縁に支えられているのだなと実感しました。

皆様、これからもどうぞよろしくお願いします。何度でもお越しください。

「手」で書く、描く...にぎわいの風景から

メールや文書、手紙もパソコン頼み、なんだか自分で「字」を書いてないなあ...と感じることも多いですが、当館では、手書きや手作りの感触を大切にしています。お客様やスタッフが書く「字」や「絵」は温かくやさしい...

- ①こいのぼり... 今年はスタッフがウロコ型の色紙を用意、メッセージを書いてもらいました。最後は、こんな感じ、まるで鳥の羽？！



- ②手づくりポスト... つし二階アート企画「つうずれる」は、皆さんの声を海外の作家に届け作品を作ってもらおうプロジェクト。子どもたちが作ったポストの中には、作品テーマ「家」についてのメッセージがいっぱい！イギリスの作家、ルイーズさんへ、皆さん、英語で書いてくれました。9月に作品が展示されます！



- ③ホワイトボード

...当館スタッフが近々のイベントをイラストで紹介。印刷物より効果絶大？「いろんなことやってるのね。」と声かけてくださいます。



奈良町にぎわいの家 二十四節気葉書 ～夏至～

ほととぎす一声鳴けり
明けやすき
夏至の大きを切り裂き鳴けり



オリジナル節気短歌
喜多隆子（歌人）
節気マークはがきデザイン
金田あおい（藍寧舎）

ほととぎすが
一声鳴いたよ。
すぐに明ける、
夏至の大きを
切り裂くように。

事務局だより

2018
夏至号

満ちる季節に

事務局長 藤野正文

6月、二十四節気では「夏至」（二十一日）から7月の「小暑」、「大暑」と夏に向けて駆け抜けていきます。「夏至」は一年中で夜が一番短く、昼が一番長い日。夏至は一年でも重要な区切りの季節なんです。全国的にも祝う風習がないようです。この季節は、梅雨の時期で、夏至といっても一番長い昼の時間も実感しにくいのもかもしれません。また、春分にはその年の五穀豊穡を願う神事、秋分にはその年の収穫に感謝するお祭、そして冬至にはこれから全てが陽に転じる始まりの日として風習が生まれているようですが、日本人にとって、夏至の期間は農作業が最も忙しい時期にあたり、風習も生まれにくかったようです。

この梅雨の時期、奈良町にぎわいの家では、草木は雨のうるおいもあり、生き生きとして、庭はしっとりとした眺めで、来館者にも落ち着いた、ほっこりした雰囲気を提供しています。日本では、都市にいながら自然と対峙せず、穏やかで四季のうつろい、季節の変化を楽しむ町家をあみだしてききました。自然素材で作られ、ささやかな自然と一体となったにぎわいの家の空間を、畳の上に少しだけ雨音も聞きながら五感を感じていただければと

思います。それが、奈良町としての心に残る「おみやげ」になると思っています。

火曜日の午後は当館スタッフによる
気軽に体験デー

（日程、内容はお問い合わせください。）



縮んだ青虫がびよーん！伸びます。（元興寺町・岸森さん制作）
どんな風に折ってるの？折り紙の不思議にスタッフ皆、興味津々。

皆様、ご協力
ありがとうございます。



5月の興福寺薪御能にあわせて、翁の奈良人形を。
材は楠、言祝ぐ翁の顔の良さ。（大塚英二郎さん所蔵）

奈良町にぎわい通信vol.38

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

書：逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



芒種

6/6~20



夏至

6/21~7/6

夏至の日の国原早苗りんりと
立ちそむるなり水の光に

前登志夫